

自治会費のキャッシュレス化等で加入世帯数アップ

沖縄県南城市 津波古自治会会長 高江洲 順達

1. 津波古区の地域概要

津波古区は東経127度46分、北緯26度10分の位置にあり、沖縄本島南部、南城市の北部に位置する。

戦後の津波古は一時「馬天区」と称し、馬天港には、終戦直後は本島内に物資を配給した沖縄民政府の中央倉庫、沈潜などの鉄くずを集める英国籍のサルベージ会社があり、スクラップの集積が産業となった。加えて大東島などの離島航路が戦前から馬天港にあったためスクラップブームと相まって働き口を求めて本島内だけでなく離島からも人が流入し昭和25年代には爆発的に人口が増える。くじら工場、製糖工場、琉球政府水産研究所、劇場、料亭、銭湯等の町の機能の施設も見られ沖縄本島南部で

も指折りの賑わいをみせる。

同区は南城市においても公共交通の利便が最もよく、平成24年の仲瀬毛の区画整理事業以降、病院やスーパー、アパートなどができて第2次の人口流入が続き、自治会未加入世帯の増加への対応、将来を見据えた若者の地域への参加の機会づくりなどが求められている。

2. 人口

令和2年3月末日の津波古区の人口・世帯数は、3760人・1571世帯となっており、南城市内において突出して人口の多い区となっている。平成22年12月から比較し、731人増・614世帯増と人口・世帯ともに増加している。馬天シータウン等の新しく開発されている住宅エリアにお



旧佐敷町時代から平成合併後の南城市になっても、津波古区は体育協会の球技・陸上大会において常にトップの成績であり、2人の東京オリンピック選手を輩出した



ける居住人口の増加等が要因と考えられる。

3. 公民館を核とした地域づくり活動

平成26年7月1日より公民館を核とした地域づくり活動、公民館が元氣になれば住民の目が公民館に注がれ自治会加入者が増えることを期待して健康づくり事業など各種事業が展開される。平成31年3月に津波古区地域コミュニティ計画を策定し、3本の柱、所謂、課題を解決する地域づくり、地域資源を生かした地域づくり、自立(自律)した組織運営(自治会費のキャッシュレス化等)の3本の柱が確率され、令和元年度以降実行する事業が絞り込まれた。

4. 自治会費のキャッシュレス化 & Tポイント付与

図1は自治会費の納付額の推移である。平成30年度まで自治会費の納入額が減少したが、令和元年度から自治会費の納入に力を入れて取り組んだ。

(1) 今まで、会計が世帯訪問して自治会費を徴収していたのを年3回の文書通知を徹底して全世帯に自治会加入も促しながら通知した。

(2) 新規事業として令和元年度7月から自治会費納入のキャッシュレス化と自治会費の納入額に対してTポイントを付与した。時代の進展、価値観の多様化に対応するため、自治会費の納め方も多様な選択肢を与えるために令和元年度から自治会費等のキャッシュレス化を次の理由で実施した。

・ 区民の生活スタイルに準じ自治会費等の徴収方法を多様化することにより自治会

自治会費の推移

平成30年度を下げ止まりにしました

年度	予算額 (A)	納付額 (B)	円	予算増減 (A)-(B)	円	納付額 前年度増減	円	納付率
H28	5,873,400	5,406,100	円	467,300	円	-68,460	円	0.92
H29	5,884,200	5,133,650	円	750,550	円	-272,450	円	0.87
H30	5,791,200	4,968,600	円	822,600	円	-165,050	円	0.86
R元	5,347,000	5,278,360	円	68,640	円	309,760	円	0.99
R2	6,121,000	6,279,975	円	-158,975	円	1,001,615	円	1.03

図1 自治会費の推移

自治会加入世帯の推移

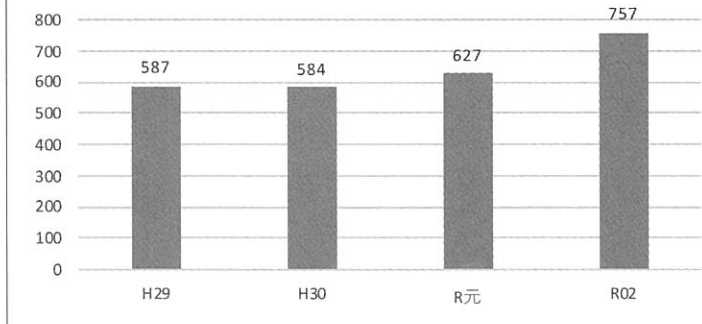


図2 自治会加入世帯の推移

費等の徴収率の向上を図るため。
 ・ キャッシュレス化に伴い電子マネー運営会社へシステム手数料等を支払う必要があるが、それと同時に支払う側にポイント(1ポイント=1円。200円あたり1ポイント)を付与するので自治会費の実質的な値下げに等しく、これを契機に自治会への加入を促進するため。
 ・ 令和元年10月に実施される消費増税に伴い、時限措置とはいえキャッシュレス決

済時に5%の還付があり、自治会活動に多く参加されている高齢者の皆さんが、その恩恵を受けられない事態を避けるためにも、なるべく早く電子マネーに馴染んでもらえるよう自治会費等の支払いをとおして、電子マネーの使い方を学ぶ機会を提供するため。

(3) 成果

・図1の自治会費の納入額の増は、通常比例するので自治会加入世帯数増(図2)に

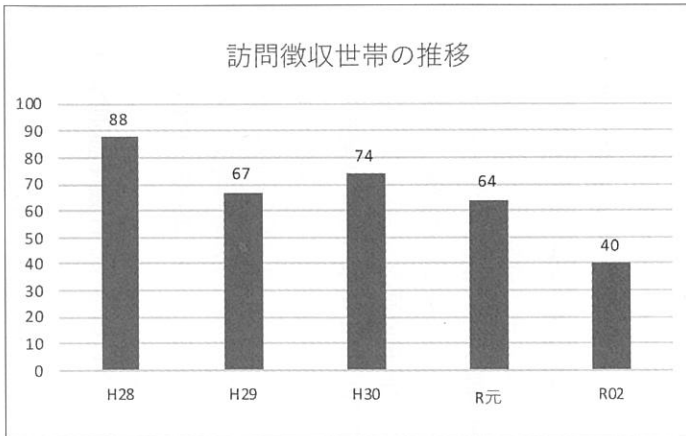


図3 訪問徴収世帯の推移

も反映されている。

・図1の自治会費の推移、対前年度増減が令和元年度30万9760円、令和2年度100万1615円と自治会費納付額が増加に転じた。

・図3の訪問徴収世帯の減少は、令和2年度から訪問徴収世帯にTポイント付与しないことにより公民館での直接納付世帯が増えたことを表す。

・会計が一軒一軒訪問して自治会費を徴収するスタイルは、Tポイント導入で将来ゼロに近づく。現在、来店(公)ポイントを1点付与するが、それを嵩上げすれば公民館直接納付になお拍車がかかる。会計の事務合理化が図られ内部事務に向けられる。

・図4は一括納付世帯の推移。令和元年度、令和2年度一括納付に対して2倍のポイントを付与した結果、一括納付世帯が増加した。自治会費の納付回数(4月～3月)で、それを一括でまとめて徴収できれば事務の効率化につながる。令和3年度は早期(4月～9月納付)一括納付に対して3倍のポイントを付与した結果、出足が好調である。

・図5は、クレジット利用者が増加が示されている。自治会費のキャッシュ化を令和元年度に導入し、会員に納付

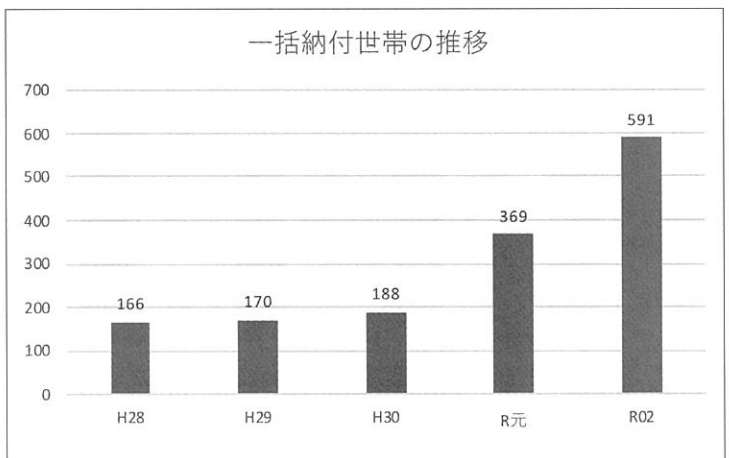


図4 一括納付世帯の推移

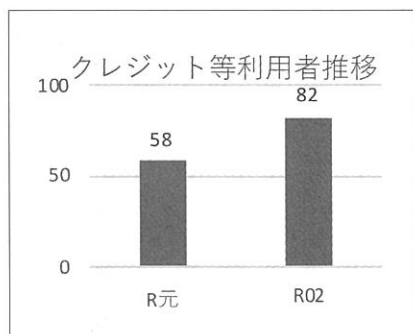


図5 クレジット等利用者推移

方法の選択幅を広げて喜ばれている。現金の手持ちがなくてもクレジット等で自治会費が納入できるという環境は、キャッシュレス社会到来と共に他地域でも今後普及するであろう。

(4) 負担

・端末機等の初期投資を除く運営経費は、令和元年度クレジット等手数料1万9996円、Tポイント手数料13万4485円、合計14万5481円。令和2年度クレジット等手数料1万9667円、Tポイント手数料22万9976円、合計24万9643円。

・参考までに、単純比較になるが、令和元年度の対前年度増収額が図1より30万9760円、令和2年度が100万1615円で兩年とも導入経費が枠内に収まり順調に推移している。

5. 自治会がめざす今後の活動

津波古区は人口微増区域で、自治会発展のためには、絶えず自治会加入世帯の割合を念頭においた活動が求められている。自治会活動は、「地域が動く仕掛けをする。とっかかりを作る」ことでもある。自治会活動のマンネリ化を防ぐため常に刺激を与え、

自治会費等のキャッシュレス化、Tポイント付与に見るように新たな事業をスタートさせたい。内に向いたら介護予防の中・高年の孤食対策。一人で弁当を食べるよりは公民館に集まってみんなで“共食”する。外に向けたら観光客の受け入れを地域で担っていくことを見据え、花いっぱいの散歩コースや公民館での伝統芸能公演、民宿やライブハウスなど新たな名所としての地域資源を活用し、地域の経済発展に結びつける。これらの活動が住む人から魅力ある自治会となつて自ずと自治会に目が向き新規の自治会加入の門戸を開くことになる。その証左が平成2年度の決算で自治会費納付総額そして自治会加入世帯数が、平成28年度以降減少していたのが令和元年度に右肩上がりになったことである。

参考資料

自治会費のキャッシュレス化とTポイントを付与するだけで自治会(費)加入世帯は増えない。魅力ある自治会づくりの諸々の行事と連動させて初めてキャッシュレス化は生きる。津波古自治会は津波古区地域コミュニティ計画に基づき実際に実行する事業・活動を絞り込み施策を展開している。

■魅力ある自治会づくり

↓自治会加入につながる

(1)健康講演会・教養講座を月1回開催

①区としても区民に健康に関心をもってもらいたいと考え、区民の健康増進や積極的な健康づくりを推進することを目的に、公民館で毎月1回をめどに開催。

②医師を招き、癌の予防法や早期発見の方法、どのような生活を心がければいいのかなど、病気のメカニズムから治療までわかりやすく解説。地元出身の医師が講師になったら100名ほど集まる。

(2)教養講座を月1回開催

①地元出身の知・芸に秀でた講師による教養講座を目指し、地域への恩返しとコミュニティづくりの一環で開催。

②金融・経済、生活設計、金融教育などに関する講演会等を沖縄県金融広報委員会との協力により金融広報アドバイザーを派遣してもらい教養講座を開催。

(3)健康づくり運動実践活動団体助成事業を活用した健康づくり事業の展開

H25 ラジオ体操による住民健康意識向上
対策事業

H26 リーダー養成による住民健康意識向上

上対策事業

H 27 動作法講座による住民健康意識向上
対策事業

H 28 津波古区かんたん！ヘルシー！クック
キング教室

H 29 津波古ヘルスアップキャンペーン

H 30 津波古区健康サークル育成拡大事業

R 元 『津波古は親子で元気』プロジェクト

R 2 「津波古の新プロジェクト！はじめて
のオンライン健康講座」

R 3 津波古区ウォーキング運動普及事業

(4)地域の野良猫不妊手術

地域の野良猫増加の対策として、不妊手術のための猫の捕獲に取り組んでいる。平成31年4月11日、15日、18日、22日、25日の計6日間で23頭の野良猫をさくら猫にした。

(5)海の運動会を初めて開催

自治会区域内にある馬天港に隣接する人工ビーチ（天の浜）は、自治会外の利用が多く、地元の住民がなかなか利用しない。この人工ビーチに住民の目を向けさせるために、令和元年9月1日に初めての海の運動会を開催し好評を得た。今後は清掃活動も実施し、住民同士の親睦の場として世代間を超えたコミュニティの場にする。

(6)青パト専用車の配置

令和元年12月23日に念願の青パト贈呈・出発式を行い、次の目的で朝夕、下校時、自治会エリアを越えて馬天小学校区をPT

A・老人クラブと連携して巡廻している。
・地域の安全・安心を守る

・子どもや高齢者を交通事故から守る
・災害時に社会的弱者と呼ばれる独居高齢

者や身障者を素早く移動させ安全を確保する

(7)ノスタルジア津波古散策コース完成

令和2年3月に名所（地域資源）に標柱を建立、散策コースの案内パンフレットを
発刊。

港町の栄華、戦後復興の歩み、今も残る住民の気概、荒廃した土地で、たくましく、したたかに再起した人々の、懐かしくも温かいノスタルジアな物語を歩いて学ぶコースとなっている。

(8)地域での“つながるフード”ドライブの
実施

コロナの影響などで食材に困っている方を対象に津波古公民館で、6月21日から食材の受け取りができる環境を整えた。

(9)令和3年8月より子ども食堂開始

子どものみの子ども食堂ではなく、多世代交流拠点を目指すボランティアサークル「馬天おいしい会」（渡辺正会長）が5月12日に誕生した。第1回の結成大会には13人が集まり、会則、役員等の審議、今後の運営方針が決まった。

開催場所…公民館

開催日時…週2回（月・水）

7時～7時45分↓子ども、

7時45分～9時↓大人

（※コロナ禍のため8月に事業スタート）



“つながるフード”ドライブの実施